

# 第2学年道徳学習指導案

男子3名 女子8名 計11名  
指導者 吉永 秀和

1 主題名 わがままはしっぱいのもと（資料名「わがままダンプのしっぱい」）

2 主題について

（1）主題設定の理由

本主題は、1 - 「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」で、基本的な生活習慣を身に付け、節度ある生活ができる子どもを育てようとする内容項目である。これは中学年の1 - 「自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする。」、高学年の1 - 「生活を振り返り、節度を守り節制に心がける。」へ発展していく。低学年においては、特に健康や安全に気を付けること、物や金銭を大切にすること、身の回りを整えることなどの具体的な指導を通して、わがままをしないで規則正しい生活をする事の大切さに気付かせることが必要である。また、周りとの調和の中で生活していることから、自分自身の健康や安全だけでなく、他人の生活をも尊重するためにも自分の生活全般を律し、節度ある生活節制を心がけることに気付かせることも大切である。

この時期の子どもたちは、学級や学校生活の中で自分のすべきことが分かるようになり、自らの手でやろうとする意欲を強く示すようになる。しかし、まだ自己中心性が残り、周りが見えなところがある。学校生活にも慣れ、安心感・安堵感からか活動も開放的になり、つい調子にのって危険なことをしてしまったり、やりすぎてしまったりして失敗することも多い。また、様々なきまりや課題が課せられる学校生活にしっかりと適応できず、基本的な生活習慣を身に付けられない子どもも見られる。このようなことから、子どもの活動意欲をさらに大きく高めつつ、自立の芽を伸ばしていけるような指導の工夫を行うことが大切である。

そこで、本主題では、節度・節制、自立に関わる問題場面に接したときに生じる心情や心情の変化を多面的に追究する活動を通して、健康や安全に気を付け、わがままをしないで生活していこうとする心情を高めることをねらいとしている。さらには、お互いに励まし合い助け合いながらみんなで節度ある学級を作り上げていこうとする気持ちを育てることもねらいとしている。

本主題の指導内容に関わる生き方への共感を高めるために、読み物資料「わがままダンプのしっぱい」を取り上げることにした。本資料は、忙しそうなダンプカーが狭い道を通り抜ける場面から始まる。その後、ハイウェイに出たダンプカーはスピードをあげ、たくさんの車を追い抜いて走る。やがて、赤いスポーツカーが近づいてきたことを知ったダンプカーは、負けじとスピードを上げる。スポーツカーがダンプカーを追い抜こうとすると、ダンプカーは右へ左へと移動し、じゃまをする。他の車に迷惑をかけるので、スポーツカーはダンプカーに道をゆずった。気をよくして追い抜いたダンプカーは迫ってくるカーブを曲がりきれずがけ下に落ちていくという内容である。

この資料を取り扱うに際して、まず、ダンプカーが周りに迷惑をかけて走っている場面を取り上げる。子どもたちにこれまでの似た経験を振り返らせ、なかなか自分の気持ちをおさえることができないことへの共感をはかれるようにする。また、ダンプカーとまわりの迷惑に気付いたスポーツカーの気持ちを比べ、心の迷いや今までの自分はどちらに近かったのかを考えさせていきたい。さらに、ダンプカーががけ下に落ちていく場面では、ダンプカーの気持ちを考える活動を通して、自分たちの日頃の生活においても節度ある生活、節制を心がけようとする自制の大切さに深まりをもたせたい。

(2) 児童の実態 調査期日 平成16年11月10日(水) 調査人員 11名 複数回答  
 本主題についての児童の実態は次の通りである。

子どもの願い	ア 自分の生活を振り返って、もっとがんばりたいこと
	ある... 11名      ない... 0名 ・勉強時間に発表する(4)      ・自分の係をしっかりする(3) ・友だちとなかよくする(3)      ・後かたづけをしっかりする(2) ・一輪車や鉄棒をがんばる      ・教室でさわがない      ・わがままを言わない ・ていねいな言葉を使う      ・給食をがんばる      ・手伝いをする 他
子どもの望ましい経験	イ 自分勝手なことをしてしまいそうになっても、がまんできたこと
	ある... 11名      ない... 0名 ・他のことをしたかったけど、宿題や係の仕事を終わらせた(7) ・遅れそうになったけど、危ないので赤信号でがまんした(2) ・人形劇で、やりたかった役を友だちに譲った 他 【その理由】 ・おこられる      ・文句を言われる      ・自分しかない ・命が大切      ・けんかになる      ・生き物が死んでしまう
子どもの弱さ	ウ 自分勝手なことをしてしまったこと
	ある... 11名      ない... 0名 ・急いでいて、廊下を走ってしまった(6) ・忘れていて、係の仕事をしなかった(4) ・自分のことが優先で、すべきことができなかった...家庭でのこと(6)
見方・考え方	エ 自分勝手なことをしないためには、どんな気持ちが必要か
	・人のことを考える(6)      ・がまんする(2)      ・一人一人ががんばる ・強い心をもつ      ・勇気をもつ      ・やさしい気持ちをもつ ・楽しさやうれしさ、悲しさを考える 他
望ましい学級のあり方	オ 自分勝手なことをしない2年生になるために、自分ができること
	・けんかをしない(5)      ・注意し合う(4)      ・すぐにおこらない(2) ・一人一人ががんばる      ・やさしい声をかける      (全員が記入)

ア～ウから分かるように、子どもたち全員が自分自身の生活を見つめ、よりよく生きようとする願いをもっている。より高い目標を掲げ、がんばって克服しようとする願いも含まれるが、自分中心のこれまでの言動を改めたいと願っている子どもも多い。全員が学級や家庭の中で節度ある生活ができた経験を持ち、わがままをしないでできたことへの達成感を味わっている一方、「節度ある生活」を望みながらも、「急いでいた」「忘れていた」「したいことが優先」などの心の弱さから、なかなか実行に移せないことがある。これは実践できたときの理由としてあげられた「おこられる」「文句を言われる」等からわかるように、よりよい見方・考え方や他を尊重した考えにはいたっていないからだと考えられる。

実践を支える見方・考え方としては、エから分かるように、「がまんする」「強い心をもつ」「勇気をもつ」など自分自身に関わる面も多いが、「人のことを考える」「やさしい気持ちをもつ」など自己と他者との関わりの面もみられる。これはこれまでの経験から自分勝手な言動が他者に迷惑をかけることがあるということに気付いているからだと考えられる。

オから分かるように、全員が自分勝手なことをしない自分自身・学級を願っている。わがままを言ったり、自分勝手なことをしたりしないために、自分自身と他者との関わりを関連づけて気付かせることが大切ではないかと考える。

本学級では、PTA年間テーマとして「片づけのしっかりできる子どもを育てよう」を掲げている。学校だけでなく家庭と連携した取組を行うことでより実践化を図ることができると考える。

(3) 指導の構想

本指導内容項目1 - 「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがまをしないで、規則正しい生活をする。」は、よりよい生活習慣を築く上でとても大切なことである。そこで具体的な場面を通して指導することで、子どもたちの心により響き実践化を図りたい。さらに、それらの具体的場面に関連性をもたせ、子どもたちが自分自身の心の弱さに気づき内面化が図られると考える。道徳の学習で培った心情の高まりを、事後の活動で実践し喜びを味わわせたり、家庭地域との連携したりすることを考慮した指導の構想を下に示す。

ねらい	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがまをしないで、規則正しい生活をする。	関連項目	勤勉・努力 1 - 生命尊重 3 - 学級愛 4 -
-----	---	------	----------------------------------

	教科・特別活動・道徳	意識のふくらみ	心構え	家庭・地域連携
道徳的判断力を高めるために	<p>「廊下にやさしい週間」廊下の正しい使い方を理解しお互いに気をつけながら安全に利用できるようにする。</p> <p>道徳「ノートのひこうき」むだ遣いをせずに、自分の物や学校の物を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>生活「大型バスを作ろう」はさみやカッターナイフの使い方に気をつけながらみんなで協力してバスを作る。</p>	<p>・まだ守れないことが多い</p> <p>・けがをしそうになった</p> <p>・物がかわいそうだな</p> <p>・物は大切に使わないといけない</p> <p>・みんなで作れてうれしい</p> <p>・いつまでも大切にしたい</p>	<p>・廊下を走るのは危険だ</p> <p>・一人一人が守ることが大切</p> <p>・物の気持ちを考える</p> <p>・親に感謝する</p> <p>・一人一人が勝手なことをしたらできない</p>	<p>と子どもを向けよう。学校での実践化を図る。</p> <p>この生活の中で、自立した子どもが活躍できるようにしていく。</p>
実践意欲の高揚	<p>「わがままダンプのしっばい」</p> <p>健康や安全に気を付け、わがまをしないで生活しようとする心情を高める。</p>	<p>・自分たちも勝手なことをしていることが多い</p> <p>・勝手なことをしたら失敗することもある</p>	<p>・一人一人が強い心をもつ</p> <p>・人のことも考えて行動する</p>	<p>おける実態を踏まえて、家庭にも生かすべく実践意欲を高める。</p>
更なる意欲の高揚と実践化	<p>行事「火災避難訓練」火災発生時の避難のしかたを理解し、安全に生活しようとする実践力を育てる。</p> <p>道徳「ねこの目」うそをついたりごまかしをしたりしないで、自分の力で最後までやり抜こうとする心情を育てる。</p> <p>「廊下にやさしい週間」自他の安全に留意して、廊下を正しく利用することができる。実践化の喜びを味わう。</p> <p>学級活動「2学期の反省」2学期の自分の生活を振り返り、自分自身の成長を喜び合う。</p>	<p>・一つしかない命を大切にしよう</p> <p>・自分勝手に行動したらいけない</p> <p>・ついごまかしてしまう心があるんだな</p> <p>・自分のためにならないなあ</p> <p>・きちんとルールを守ろう</p> <p>・廊下は自分だけのものではない</p> <p>・きちんとした生活ができた</p> <p>・3学期もがんばろう</p>	<p>・避難時はあわてない</p> <p>・勝手に行動しない</p> <p>・ごまかしたらいけない</p> <p>・自分でがんばらばいい</p> <p>・一人一人がきまりを守る</p> <p>・みんなで安全を作っていく</p> <p>・できたときのうれしさを忘れないようにしよう</p>	<p>日常生活に節制を、自立した子どもが活躍できるようにしていく。</p> <p>お節つもや、学級で学んだことを、生活の中で実践させ、P.T.に知らせる。</p>

#### (4) 指導上の留意点

指導にあたっては、次のことに留意していきたい。

- ア これまでの道徳の時間における指導上の課題点を改善し、「子ども一人一人の心に響く道徳の授業」を目指して学習の展開の工夫を図っていききたい。特に、子ども一人一人が明確な問題意識を持ち、課題を自分のこととして解決していこうとする主体的な追究活動ができるようにしたい。また、高まった心情を生かす場を設定し、子どもたちに実践できた喜びを味わわせていききたい。
- イ 「きづく」過程においては、まず学習する価値について提示し、よさや願い等を意識させたい。次に、事前に実施したアンケート結果から、自分勝手な行動をしてしまった体験談やその時の気持ちを発表させ「自分勝手なことをしないためには、どうしたらいいのか」という共通の課題意識を練り上げていくようにしたい。さらに、自分自身の生活を考えさせ、一人一人の問題意識を高めていききたい。
- ウ 「さぐる」過程の資料の読み聞かせにおいては、臨場感が表れるような読みを心がけ、子どもたちが教師の声をきいたり、副読本の文章や挿絵等を見たりすることで場面の様子を理解できるようにしたい。その際、場面における感想や意見を問いかけじっくりと資料の世界に浸れるようにしたい。そして、資料の視聴後、心に残った場面を発表させるが、単に場面を発表するだけでなく、その理由等も発表させることで、資料を読み取る力や自分自身のこととしてとらえる力を育てていきたい。
- エ ダンプカーが自分勝手に走っている場面では、自分の似た経験やその時の心情を想起させながら、「わがまま」がいけないことだと知りながら、なかなかできないことに共感させるようにしたい。また、まわりの車や自転車が迷惑していることやダンプカーのような「自分勝手」な行動が自分たちの生活の中にでも存在していることに気付かせていきたい。
- オ ダンプカーと赤いスポーツカーが競争をしている場面では、役割演技を行わせ両者の心情を追究させていきたい。役割演技の中で、子どもたちが表現する言葉や表情を通して「負けたくない」「自分が一番」と考えているダンプカーの心情と「他に迷惑がかかる」「危ない」と自制した赤いスポーツカーの心情を明らかにし、両者の気持ちを対比させることで自制することの大切さに気付かせていきたい。
- カ ダンプカーががけ下に落ちていく場面では、ダンプカーの気持ちについて各自の考えを道徳ノートに書かせ、机間指導しながらそれぞれの考えを評価したい。そして子どもたちの考えを広げ深められるように意図的指名を行い、価値について多面的にとらえられるようにしたい。
- キ 「ふりかえる」過程においては、資料によって自己の価値観を深めてきた子どもたちに、これまでの自分を振り返らせたり、これからの自分の生き方を考えさせたりする場を設定し、自分勝手な行動をしないために大切な気持ちや考え方を明らかにしていきたい。
- ク 「生かす」過程においては、教師の説話で自己中心的な気持ちをおさえることの難しさとともに、自制する心の大切さをさらに深め、今後の生活に生かしていけるようにしたい。

### 3 本時

#### (1) ねらい

- ア 健康や安全に気をつけて、節度ある生活をしようとする心情を育てる。
- イ よりよい生活をめざして、自分自身あるいは学級の仲間のためにできることを考えることができる。

過程	主な学習活動	時間	教師の支援と評価
<p>きづく</p>	<p>1 「自分勝手」なことをしてしまったことやその時の気持ちについて発表する。</p> <p>・急いでいて廊下を走った。 ・忘れていて係ができなかった。 ・好きなことをしてできなかった。</p> <p>2 学習のめあてについて話し合う。</p> <p>自分かってなことをしないためには、どのような気持ちが必要だろう。</p>	<p>5分</p>	<p>これまでの経験を振り返らせ、その時の気持ちを発表させることで、望ましい生き方を阻む心の矛盾に気付かせる。意図的指名により、ねらいとする価値への方向づけを行う。</p> <p>子どもの発言した言葉を手がかりに、本時のめあてを立て、それぞれに問題意識を持たせる。 本時のめあてを、自分のこととして受けとめることができたか。</p>
<p>さぐる</p> <p>みつける</p>	<p>3 資料「わがままダンプのしっばい」を聞き、ダンプカーや赤いスポーツカーの気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) 心に残った場面やみんなといっしょに考えたい場面を発表する。</p> <p>(2) ダンプカーは、どんな気持ちで狭い道を通り抜けているのが話し合う。</p> <p>・どけどけ、じゃまだ。 ・いそがしくて、ゆっくりなんて無理だ。</p> <p>(3) 競争しているダンプカーとスポーツカーの気持ちを話し合う。</p> <p>ダンプカー                      スポーツカー</p> <p>まけるもんか。 ・力がつよいんだ。 ・ぜったいかつ。 ・ぼくがいちばんだ。 ・よわおしだな。</p> <p>スピードはまけない。 ・あぶないうんでんだな。 ・けがをしないかな。 ・もうあぶない。 ・まわりにめいわくだ。</p> <p>(4) がけ下に転げ落ちながら、ダンプカーはどんなことを考えたか話し合う。</p> <p>・競争しなければよかった。 ・やりすぎてしまった。 ・大けがするかもしれない。</p>	<p>27分</p>	<p>心に残った場面に線を引いたり、教師の問いかけに反応したりするなど、意図的に問題場面向き合おうとしたか。 場面絵を用いながら、資料内容の理解や主人公への共感を図る。</p> <p>場面絵 人物絵 キーワード ダンプカーのように、自分勝手な考えから周りに迷惑をかけていることがあることや、周りの車や自転車が迷惑しているように学級でも困ったことがあることを各自の経験と重ねて考えられるように助言する。</p> <p>ダンプカーと赤いスポーツカーのどちらを表現したいか問いかけ、グループを形成する。役割演技を繰り返していく中で、自分の気持ちがどちらに近づいているかを考えさせていく。</p> <p>お互いが競争をする中で、さらに周りへの迷惑がかかったことや、自制することの大切さに気付いた赤いスポーツカーとそれに気付かないダンプカーの気持ちの変化を対比させる。 赤いスポーツカーの気持ちの変化に気付くことができたか。 中心発問(4)に対する自分の考えを道徳ノートに書かせ、机間指導を行いながら評価を行い、意図的指名や板書に生かす。 自制することの大切さについて自分なりの見方・考え方を深められたか。</p>

1 ふりかえる ↓ 2 いかす	<p>3 自分勝手なことをしないで、よりよい学級を作るためには、どんなことが大切か考える。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>・一人一人が、がまんする。</p> <p>・つよい心をもつ ・ゆう気をもつ</p> <p>・やさしい気持ちをもつ。</p> <p>・人のことを考える。</p> </div> <p>4 教師の話聞き、自制する心の大切さをまとめる。</p>	13分	<p>これまでの自分を振り返ったり、これからの自分の生き方を考えたりする。</p> <p>自分勝手な行動をしないために大切な気持ちや考え方について話し合う。</p> <p>自分自身が強い心を持ったり、周りのことを考えたりすることの大切さに気づき、節度ある行動をしていこうとする実践意欲が高まったか。</p> <p>学校や家庭・地域での生活において本時で学習したことを、今後実践できるような場を紹介するなどして児童の意欲を高めていく。</p>
-----------------------------	--	-----	--

(3) 評価

節度・節制、自立に関わる自分の生き方を見つめ、自分の心の迷いや弱さに気づき、節度ある生活をしようとする気持ちを高めることができたか。